



放課後デイで一般就労につながる技能を

障害者支援「札幌チャレンジド」
高校生らに新コース

放課後等デイサービスでパソコンの技術を磨く高校生(奥)

障害者の就労支援に取り組む札幌市北区のNPO法人札幌チャレンジドは本年度、運営する放課後等デイサービス(放課後デイ)に「キャリアデザインコース」を設けた。放課後デイを利用する高校生らに、より実務的なパソコン技能などを身に付けてもらうことで、一般就労への道筋を具体的に示す狙いだ。

同コースは、これまで同法人が放課後デイで行ってきたパソコン指導について、より実務や検定対策などに特化した内容を提供する。また公認心理師やキャリアコンサルタントの資格を持つ講師が、他者とのコミュニケーションや社会生活に必要な「聞く」「伝える」「スキルなどを指導する。長期休みには希望と適性に応じた就労体験もできるようにする。

大きな目的は、障害のある高校生らの卒業後の選択肢を広げることだ。障害のある人は、障害者総合支援法に基づく就労継続支援事業A型事業所や同B型事業所に就労するケースが多いが、一定の技能がある人は一般就労できることが少なくない。

札幌市教委によると、軽度の知的障害がある生徒らが通う市立高等支援学校の卒業生の進路は一般就労が5割、同A型事業所が2割、同B型事業所が3割。同法人は一般就労の可能性を広げたい考えで、加納尚明理事長(61)は「障害のある子どもは17〜22歳ごろに急激に成長することがある。将来どんな仕事をしたのかを考える機会にしてほしい」と話している。

同法人は障害者にパソコン技術の取得を促し、自立を支援する団体として2000年5月に発足。就労継続支援A型事業、就労移行支援事業、放課後デイを運営している。キャリアデザインコースは常時体験を受け付ける。問い合わせは同法人の電話011・769・0843へ。

(高田かすみ)